

会議録【全文筆記】

会議名称	令和7年度 第1回置賜定住自立圏共生ビジョン懇談会 会議録	
開催日時	令和7年7月16日（水） 午後1時15分～午後2時15分	
開催場所	置賜総合文化センター 2階 203 研修室	
出席者	（委員等氏名） 会長 野々村美宗 副会長 田中 明子 委員 加藤 里美 委員 小泉 玲子 委員 小関 洋子 委員 鈴木 正弘 委員 清野 雅好 委員 西川 友子 委員 中井 晃 委員 菅井 厚 委員 高橋 和衛 委員 吉田 博之	（所属団体等） 山形大学工学部 米沢商工会議所 米沢市民生委員児童委員連合協議会 米沢観光コンベンション協会 米沢市青少年育成市民会議 J A山形おきたま 米沢市社会福祉協議会 山形県立米沢女子短期大学 山形鉄道株式会社 川西町まちづくり委員会 小国町振興審議会 白鷹町振興審議会
欠席者	（委員等氏名） 委員 遠藤 央子 委員 佐藤 きく 委員 結城 秀人 委員 宮原 博通 委員 鈴木 正人	（所属団体等） 白布温泉 湯滝の宿 西屋 米沢市婦人防火指導員連合会 南陽市観光推進会議 高畠町政策審議会 飯豊町振興審議会
オブザーバー	長井市総合政策課長補佐、南陽市みらい戦略課長補佐、高畠町企画課長、川西町企画財政課長補佐、小国町総務企画課企画財政主幹、白鷹町企画政策課長、飯豊町企画課長、置賜総合支庁総務企画部総務課連携支援主査	
事務局	米沢市企画調整部長、政策企画課長、政策企画課長補佐、政策企画課企画調整主査、政策企画課主事、置賜広域行政事務組合事務局次長兼総務課長、総務課長補佐兼企画財政係長、総務課企画財政係技師、総務課企画財政係主事	
会議次第	1 開会 2 会長あいさつ 3 協議 （1）令和6年度の取組について （2）置賜定住自立圏第2次共生ビジョンの改定（案）について 4 その他 （1）脱炭素先行地域について 5 閉会	
会議資料	次第名簿 資料 1-1 令和6年度の主な取組について 資料 1-2 置賜定住自立圏第2次共生ビジョン令和6年度進捗状況及び成果指標等まとめ資料 資料 2-1 置賜定住自立圏第2次共生ビジョンの改定（案）について 資料 2-2 置賜定住自立圏第2次共生ビジョン（案） 資料 3 脱炭素先行地域について	

会議内容

【1 開会】

省略

【2 会長あいさつ】

本日は暑い中、皆様にお集まりいただき、誠にありがとうございます。本日の懇談会ではこれまでに策定されてきたビジョンに基づいて実施された事業についての報告をいただくとともに、ビジョンの改定や新たな取組についての説明を受け、皆様と協議を進めてまいりたいと考えております。委員の皆様から活発な御意見をいただき、充実した懇談会となるよう努めてまいりますので、よろしくお願い申し上げます。

【3 議事】

(1) 令和6年度の取組について

(資料1－1、資料1－2に基づき説明)

委員 環境分野におけるGXの推進について、具体的な取組を教えてくださいませんか。

事務局 GXの取組は置賜広域行政事務組合の主催で研修会を開催しました。今回の研修会ではGXをテーマに掲げ、3市5町の職員が参加しました。先ほど脱炭素先行地域に関する話題に触れましたが、それに関連して3市5町で議論を行い、横展開などどのように広げていけるか研修を実施しました。

会長 産業振興分野における観光資源について、水没林のカヌー体験は全国メディアでも頻繁に取り上げられており感心しております。県外からもカヌー体験に多くの観光客が訪れていると伺っています。この観光資源を一時的なブームで終わらせることなく、継続的な観光資源としていくためにはどのような取組を今までされていて、また、今後どのような取組を計画しているかお聞かせいただければと思います。

事務局 白川湖の水没林は近年様々なメディアで取り上げていただき、特に3月下旬から5月中旬にかけて、県内外から多くの方々に訪れていただいております。今年も公園の臨時駐車場にカメラを設置し、駐車台数を記録しております。臨時駐車場だけでは対応が不十分なため、県の源流の森の駐車場をお借りし、バスのピストン輸送で対応しました。渋滞などが起こり、ダムの上にある集落で暮らしている住民の方々にとっては、生活に支障をきたす問題となっています。このため、渋滞対策として誘導員の配置や駐車場の増設などを行い、毎年改善を図りながら対応を強化しているところです。今年度についても、これまでの反省点を踏まえた総括会議を実施し、訪れていただいた方々に満足していただけるような対策を講じていきたいと考えています。飯豊町としては観光客が訪れても、すぐに帰ってしまうという課題があります。その結果、地域にお金を落としていただけないケースが多いのが現状です。そこで、飯豊町や置賜地域全体で、観光客にどのように時間を過ごしていただくか、また、地域にお金を落としていただくかを検討し、昨年度策定した町の観光計画に基づいて施策の検討を進めていきたいと考えています。訪れた方々にはゆっくりと水没林を眺めていただくとともに、カヌーを含め体験を楽しんでいただき、さらに宿泊していただけるような仕組みを構築していきたいと思っています。

委員	消防防災関係について、通信指令業務を共同運用したことで、具体的にどのようなメリットがあったのでしょうか。
事務局	システムの耐用年数が更新時期を迎えたため、2つのシステムを共同運用したほうがメリットがあるということで開始しました。具体的には消防本部となりますが、今後さらに広げられる部分について広げていきたいと考えています。
委員	産業振興分野の広域観光の推進に関して、現場からは「まちナビカードの利用が伸びていないのではないか」という声が上がっています。現在、100店舗で掲示可能な状況にあるものの、利用店舗数は年々減少しており、特に西置賜地域での利用が少ないという指摘があります。また、道の駅よねざわには電動レンタサイクルが設置されていますが、道の駅を訪れる方の多くが車で来場するため、電動レンタサイクルの利用が進んでいないという課題があります。米沢駅の電動レンタサイクルは電車で来られる方に利用されており、高畠や川西、さらには白川湖の水没林を訪れる方もいるなど、道の駅の広域観光の推進が適切に行われているか、具体的な取組や成果について教えていただきたいと思います。
事務局	まず、1点目のまちナビカードについてですが、御指摘がありましたように、最大で100店舗の掲載が可能です。昨年度の実績では74店舗が掲載されており、その内訳は西置賜の長井市が2店舗、小国町が1店舗、白鷹町が1店舗、飯豊町が2店舗という状況です。この取組をさらに拡大することで、道の駅を訪れる多くのお客様を地域全体に誘導することが可能になると考えています。引き続き道の駅を拠点としながら、管内を巡っていただけるような取組を進めていく必要があると考えています。2点目の電動レンタサイクルの利用ですが、広域観光という視点での御意見を所管課に伝え、今後の施策に反映できるよう検討してまいりたいと考えています。
委員	観光客を呼び込むための施策として、観光大使によるPR活動に取り組んでみてはどうでしょうか。また、置賜地域で組織の連携や施設の共有について検討することで、廃校や施設が活用されないまま放置されていることもありますので、検討してはいかがでしょうか。消防に関して、置賜地域には2つの組合がありますが、国に沿った合併を進めても良いと思いますがどうでしょうか。
事務局	観光客を呼び込むための観光大使によるPR活動の取組ですが、具体的な事例は現時点で把握していない状況です。ただし、他自治体では様々な取組が行われていると思いますので、そういった事例を参考にしながら、今後の施策を検討していきたいと考えています。この件は担当部署にも情報を共有し、検討していきたいと考えています。次に、施設の共同利用についてですが、これは統廃合や余っている公共施設、また、更新時期に差し掛かっている施設があり、各市町単独で整備するか、連携して新たに整備するか、あるいは現状のまま活用続けるかといった選択肢が議論されると思います。この点については今後も引き続き検討を進めていきたいと考えています。
事務局	東置賜で合併したのが平成24年ですが、一方、西置賜では既に合併されていた経過がありました。今後の合併は現時点では未定であるため、回答を控えさせていただきます。

会長	交通分野における取組についてですが、前回の議論の中で米坂線の復旧に向けた取組や地域が連携して交通網を充実させるべきではないかという意見が出たと記憶しています。今後、この分野でどのような具体的な取組を進めていく予定でしょうか。
事務局	今後の取組ですが、まず米坂線の復旧促進についてお話しします。既に新聞報道などで御存知の方も多いかと思いますが、これまで JR 主催の復旧検討会議や首長級の会議、事務担当者会議など、様々な場で議論を進めてきました。今年 3 月には JR 主催の復旧検討会議が開催され、その中で JR の上下分離のパターン、第 3 セクターで運行するパターン、バスで運行するパターンということでそれぞれ費用の提示が出されました。これに対し、両県からは基本的には鉄道復旧を目指す方向で意見を述べました。その後、山形県側では県が中心となり、担当課長会議や個別の自治体訪問を通じて調整を進めています。今年 8 月 3 日で災害発生から 3 年目を迎えることから、その辺りを目指しながら何らかの方向性を示す場を設けたいと考えているとのこと。また、定住自立圏の枠組とは別に、県が設置している地域公共交通活性化協議会の活動の一環として置賜地域の部会では、置賜総合病院への各自治体からのアクセス改善をテーマに協議を進めています。現在、置賜総合支庁の地域連携支援室が中心となり、まず現状の公共交通で置賜総合病院へのアクセスが可能かどうかを確認した上で、今後の可能性について検討を進めていく段階にあります。
委員	山形県の副知事が就任され期待される人材ですので、早期にスピード感を持って対応してほしいと思います。
(2) 置賜定住自立圏共生第 2 次共生ビジョン改定（案）について （資料 2－1、資料 2－2 に基づき説明） 特に意見等はなし	
【4 その他】	
(1) 脱炭素先行地域について （資料 3 に基づき説明）	
委員	ながめやまバイオガス発電所ですが、現在はオンサイト型で稼働していますが、今回オフサイト型を作るとのことですが新たに設置する予定なのでしょうか。
事務局	新たに米沢市と飯豊町の 2 ヶ所に設置する予定です。まずは飯豊町に設置を進め、その後、米沢市での設置を行う計画となっています。
委員	ながめやまとおきたま新電力株式会社の関係について教えていただけますでしょうか。また、役員構成に首長の名前がありましたが、どのような位置付けなのでしょうか。
事務局	ながめやまバイオガス発電所は、長井市に拠点を置く東北おひさま発電という会社が運営しています。一方、おきたま新電力は発電事業者ではなく、電力の小売を行う事業者で、発電された電気を地域の住民や事業者に供給しています。出資に関して、自治体は出資していません。また、役員についても、自治体が関与していないと記憶しております。

事務局	補足いたしますと、設立時の趣意書には自治体の首長の名前が記載されていると思います。賛同者として名前が掲載されていますが、役員には首長は含まれておりません。
会長	環境省で採択されたということで素晴らしい成果だと思います。今回の取組ですが、どの点が新しく、また、高い評価を受けて採択に至ったのか、具体的に教えていただけますでしょうか。さらに、最後の部分で「安価な電力を供給する」と記載されていますが、新しい方法を用いて安価な電力を実現するのは難しいのではないかと感じています。この点について、どのようにして実現されるのか教えていただければと思います。
事務局	環境省の評価委員から様々なヒアリングや評価審査を受けた結果、特に高く評価されたのが、資料6 ページのポイント1と2の部分です。まず、ながめやまバイオガス発電が全国初の肉用牛を活用したバイオガス事業として、安定的に稼働している点が評価されました。この取組は以前から高い評価を受けていましたが、さらに小規模農家向けに範囲を広げて展開している点が特に高く評価されたと感じています。次に、液肥濃縮ペレット化の取組についてです。バイオガス発電では副産物として消化液が発生しますが、液肥のままでは堆肥として利用する際に多くの労力が必要です。これをペレット化することで汎用性が向上することが高く評価されました。また、安価な電力供給に関する取組ですが、おきたま新電力では、企業理念として「地域貢献」「地産地消」「ゼロカーボン」を掲げております。売上よりも社会貢献を重視する社長の強い思いが反映されており、地域貢献を重要視していることが一番大きいです。さらに、国の交付金を活用しながら、工夫を凝らして安価な電力供給を実現できるよう進めていきたいと考えております。

【5 閉会】

省略